

日 時 令和6年6月10日（月）13:35-16:00

場 所 栃木県立馬頭高等学校会議室・各教室

1 開会【青木教頭】

2 校長挨拶【小島校長】

○学校概況について

- ・今年度より普通科1クラス減となり、2学級特例校となった
- ・普通科で38人入学／40人定員、水産科で100%の充足率を達成できた
- ・馬頭中学校と小川中学校からの卒業生が45%を占める
- ・生徒それぞれで事情は異なるが、高校に順応して頑張っている
- ・レスリング部では全階級で関東大会に出場し、125 kg級で3位
- ・卓球部では数年ぶりに北部大会を勝ち上がり、県大会に出場した
- ・水産科の課題研究の1グループが「河川功労者賞」を受賞した
- ・巨大キャベツも定着し、今年も給食に提供させていただく
- ・馬頭高校版公営塾、コミュニティスペース「HITOTEMA」が軌道に乗った。那珂川町のサポートに感謝している

3 県教育委員会あいさつ及び委員任命

【高校教育課：藤澤指導主事】

- ・学校と子ども達を取り巻く環境の変化が複雑化、多様化している。教育改革と学校と地域の連携が重要視されている。学校の課題や生徒の豊かな成長のためには、育てたい生徒像や教育ビジョンを地域の皆さまで共有する、地域とともにある学校が求められている。
- ・学校運営協議会は、学校と保護者と地域住民が意見を出し合い、学校教育に反映させていくことで、地域とともにある学校づくりを行う仕組みである。
- ・本県においては、平成30年度日光明峰高校と馬頭高校の2校が最初に設置した。令和4年度から第2期学校再編計画がスタートし、再編に向けた動きが活発化している。
- ・馬頭高校はすでに魅力的な取り組みを行っている。地域と連携することでさらに活性化することが期待されている。

4 自己紹介

○名簿順 資料1 頁参照

- ・【学校運営協議会委員】→【教育委員会】→【事務局】

5 委員長・副委員長選出 昨年度に引き続き、委員長：若園会長 副委員長：吉成教育長

6 議事（進行：若園会長）

（1）本校の学校運営協議会について

青木教頭：栃木県立馬頭高等学校学校運営協議会 会則（資料1）概略説明

（2）令和5年度学校運営協議会活動報告

青木教頭：資料2「学校運営協議会活動状況報告書」説明

「令和5年度地域連携活動一覧」説明

「コミュニティスペース HITOTEMA」について

若園議長：昨年度も取り上げた通級指導についてはどのように進んでいるか？

青木教頭：希望者が数名あり、放課後の時間を利用し、順調に進行している

若園議長：HITOTEMAは宇都宮大学でも学生が活用している。企画財政課で補足はありますか？

谷田委員：高校生の居場所の創出、地域の方々とのかかわりの場をもてるようなプログラムを用意している。担当の石川（HITOTEMA担当者）からより詳しい説明をさせていただく。

担当石川（地域おこし協力隊）：

昨年度の学校運営協議会での審議から話が具体化し、当初は「公営塾」として発案され、学校からは「サポートルーム」と提案を受け、最終的には「コミュニティスペース HITOTEMA」で確定した。目的としては、公的な共有スペースの利用を通して生徒の主体的な学びを引き出すことと、地域に対する愛情を醸成すること。内容は、自主学習をメインとして、町の公用車等を活用し、地域の方々との交流活動を取り入れたいと考えている。活動日は水曜を除く平日。16 時～20 時まで。4/23 から開設し、これまで累計 76 名が参加している。これまでにイチゴ園の摘み取り等の活動を行った。

益子会長：広報活動などはどのようにおこなったのか。保護者によく知られていないのではないかな。

青木教頭：案内チラシをクラス掲示して周知した。

益子会長：地域というのに地域の人に知られていないのではないかな。

若園議長：高校が主催ではないところ、どのように広報するか。そのあたりはいかがかな。

谷田委員：町でもホームページなど工夫して広報していきたい。

（３）令和６年度学校経営方針及び重点目標について

若園議長：学校経営方針については、運営協議会の承認が必要となっているので、ご確認いただきたい。

１）経営方針

小島校長：

- ・多大な支援をいただいた中でうまく学校を運営することができた。メディアの登場数も、一番多かったのではないかなと思っている。したがって、維持向上をメインとして大きく変えず踏襲する内容となっている。
- ・スクールミッション、スクールポリシーについては全県下で各校ごとに設定することになっている。県教育委員会との協議を経て確定し、ホームページでも公開している。教育目標と校訓については長年にわたり学校の核となってきた方針で地域とともにあるというコンセプトはこれからも変わらないものだと考えている。
- ・学校経営上の留意点については、一部を変更している。
- ・学習及び生徒支援については、支援をしながら、寄り添いながらより良い方向を目指す。
- ・生徒支援については、様々な学校行事の充実が大切。行事、部活動等で学校を盛り上げていく。通級など個別の支援も行っていく。
- ・進路支援は学習支援と生徒支援の上にあるもの。進路のみではなく、３年間を通して学習支援と生徒支援と合わせて実現させていく。
- ・地域連携については本校生徒が充実した学習を行っていく上で欠かせない様々な支援を今後ともお願いしたいとともに、情報発信をさらに強化したい。
- ・働き方改革に関しては追加事項として取りあげた。単に業務の軽減ではなく、改善を目指していくことが大切と考える。

若園会長：委員の皆さんから何かご意見は？特にないので、ご承認いただいたとみなしたい。
ありがとうございます。

２）重点目標

小島校長：

- ・学校運営に関する基本方針は、校長自身の考え方を浸透させるために提示した。
- ・重点目標および具体的な取り組みについては４つに絞った。基盤は安心安全であり、それをベースに充実した教育活動が展開できる。特色ある教育活動については、那珂川学や水

産科の課題研究をはじめ、様々なところで地域の皆さまにご支援をいただいている。普通科で全員がインターンシップをやっている学校はあまりなく、本校の特徴となっている。地域の皆様のおかげだと考えている。そういった体験を通して、生徒が成長する様子を常々感じることができている。

- ・宇都宮において開催される中学生向けの進学ガイダンスでは、1, 2名しかブースを訪れないこともある。それでもその1名を確保するようこれからもPRと学校の活性化を行っていききたい。

若園議長：

- ・地域に開かれた学校づくりで中学校等との交流はどのようなことがあるか？

小島校長：

- ・馬頭中学校の生徒が本校に来校してくれたり、水産科やボランティア部が各種交流を行っている。

若園議長：

- ・馬頭高校のキャッチフレーズについては？

小島校長：

- ・昨年度から採用している。キャッチフレーズの具現化に向け、全職員で取り組んでいきたい。

若園議長：

- ・授業参観の様子はどのようなものだったか？

益子会長：

- ・2班編成で参観したが2つの班とも通級指導の部屋をみることができたのか？通級指導について、委員の方々の会話からどのようなことを行っているか周知が十分にされていないのでは、という印象をもった。

田中教務主任：

- ・簡易的ではあるが、2班ともにご案内差し上げた。

小島校長：

- ・昨年度からお伝えしている通り、通級指導は県立高校の全県下で行われている。個々に対象が異なり、保護者本人との面談を通して指導していくのでその詳細をお伝えすることは難しい。

若園議長：

- ・詳細や個が特定できてしまうようなものは望まないものの、概略が分かるような一般的なものについて、次回以降ご提供いただけるかご検討いただいてもよいかなと思う。

(4) 令和5年度の卒業生進路状況

藤田進路指導主事：

- ・今年の春の卒業生の進路状況を示した。例年就職6割、進学4割という傾向があるが、今春卒業生については進学者の割合がやや高くなっている。4大進学者は3名、うち1名が岩手大学に25年ぶりに現役での国立合格を果たした。就職先については約半数が近隣市町。地域の活性に貢献できているとみることができるのではないかな。那珂川町役場に1名合格し、1名が縁故就職である以外、すべてがハローワークを仲介した校長推薦による就職であった。

久保委員：

- ・生徒が就職の志望先を決める際、どのような方針で薦めているか。

藤田進路指導主事：

- ・4月に進路希望調査を行い、個々の希望をもとに年間の進路行事を活用し、絞り込みを行

っていく。早い段階から進路指導に当たり、学年集会を行ったり、生徒の決断を支援していく。

益子委員：

- ・卒業した娘の時は求人票を保護者が見る機会が三者面談までなかった。

藤田進路指導主事：

- ・求人票は7月1日から公開される。今年度は7/9（火）に保護者同伴で進路説明会を実施することになっている。その場で求人情報も公開する予定である。

（5）令和4・5・6年度入学選抜状況

田中教務主任：

- ・充足率や実数から令和6年度の充実が分かる。今年度についても、広報活動を地道に続けていきたい。

若園議長：

- ・特例校、特に水産科については募集定員が25名ということで、1名のウエイトが非常に大きい。1名を大切にすることが重要といえる。

（6）学校の魅力化・特色化に関する意見交換

青木教頭：資料説明

（7）その他

若園議長：一人一言、委員の方からご意見をいただきたい。私から話をさせていただくと、県教委の説明にあったように、問題が多様化しているとの指摘はその通りであるが、もともとあったものが、見えるようになってきたとみることができるのではないかと。1から始めることはかなり大変で、今までやってきたことを見直したり、つけ加えることで対応できることもあるのではないかと。

矢後委員：

- ・対話型の素晴らしい授業をみせていただき、今の生徒がうらやましかった。その中に温かさを感じた。このような授業を今後も継続していただき、さらに素晴らしい学校にしていきたい。

益子委員：

- ・VR防災カーが体験できると新聞で見た。馬頭高校でも実施していただきたい。

久保委員：

- ・無機的授業でなく、英語の授業を見てうらやましい環境と思った。那珂川学で商店街の案内をさせていただいたが、教材はたくさんある。先生との会話を通してよい体験をしていったらより良い学校となるのではないかと。

薄井委員：

- ・情報発信について、町でもアンケート等をとっているが、情報の受け取りに課題があるようだ。こまめに継続して情報発信をしていくことが大切だと思う。

谷田委員：

- ・HITOTEMAを通して、地域と那珂川町に愛着を持ってほしい。そして将来的に那珂川町に戻ってきてほしい。

吉成教育長：

- ・取り組みが結果として表れている。今後とも先生方のご努力をお願いしたい。

7 その他 事務連絡

第2回学校運営協議会日程については、9月下旬の実施を計画している。